

## 第10回 多摩市街路樹よくなるプラン改定委員会 要点録

日時： 平成31年2月6日（水） 15時00分～17時00分

場所： 多摩市役所東庁舎1階会議室

出席者：【委員】（敬称略）

池邊 このみ 大石 武朗 大橋 久仁恵 清水 義功 仙仁 径  
中尾 浩 沼田 真也 野村 徹郎 宮内 泰之

### 【事務局】

都市整備部長 森田  
道路交通課長 内田  
道路交通課整備保全担当主査 山本  
道路交通課整備保全担当 芦澤・高橋

【傍聴】 1名

### 議事次第

- 1 開会
- 2 議事
  - (1) 多摩市街路樹よくなるプラン改定版原案について
  - (2) その他
- 3 閉会

## 1 開会

・森田都市整備部長より開会の挨拶

## 2 議事

### (1) 多摩市街路樹よくなるプラン改定版原案について

1)事務局より資料-2 を用いて、原案市民説明会を報告した。

その後、資料-1 を用いて、改定版原案確認のための説明を実施した。

2)質疑応答

#### ■表紙

委員：上之根大通りの写真は、P. 1-6 の写真と差し替えてはどうか。

副委員長、委員：見慣れた写真であるため、将来イメージの写真に変更してはどうか。

事務局：現状の管理状況を示すとして現在の写真を載せていきたい。

委員：このまま現状の写真を示すことで良いと思う。

委員長：現状の写真でも良いが、人がいないのが気になる。

事務局：現状の写真を載せることを基本とするが、特に上之根大通りについて、より良いイメージの写真がないか確認する。

#### ■全体

委員：図は可能な限り大きくされたい。

委員：「各章のタイトル文字」が小さ過ぎる。文脈の流れを変える大きな節目となる部分なので、読み手の注意を喚起する意味からも、大きな文字にした方が全体のメリハリが効く。逆に、「写真の提供先の文字」はもっと小さくてよい。あくまでもキャプションが主体であり、提供元は参考記載であるため。

事務局：対応を検討したい。

委員：「街路樹剪定ハンドブック」の発行者名が誤っている箇所があるので、修正すること。

事務局：ご指摘のとおり修正する。

#### ■第1章

委員：図 1-2 の反映している文章を示してはどうか。

委員：P. 1-4 の図 1-3 は、P. 1-1 に記した「街路」と「遊歩道」の説明を写真で示すものであり、離れているとわかりづらいので、p1-3 に移動させてはどうか。図 1-2 の「関連計画・報告書」の文言の配置を工夫すれば、p1-3 に移動できるのではないか。

事務局：文章の流れや構成を踏まえて検討したい。

## ■第2章

委員：P. 2-2 2段落目の自治体の規模に対して多くの街路樹を有するという記載について、  
何の規模を指しているのか不明瞭であり分かりづらい。

委員長：「また、～見方もできます。」の文章を削除してはどうか。

事務局：ご指摘をふまえて、部分削除することで対応したい。

## ■第3章

委員長：「多様な主体」の内容は、p3-2 に記載されているものの、他の頁でこの文言を初めて目にした市民には、何のことか理解できないのではないか。「市民・組織体等」として、少しでもイメージが湧くように改めてはどうか。

委員長：国が政策の言い回しとして利用している文言であり、このままとしたい。

## ■第4章

委員：図 4-5 及び図 4-6 は「草花や地被植物」としてはどうか。

事務局：ご指摘のとおり修正する。

委員：P. 4-14 の ICT とは何か。必要な文言であれば注釈が必要である。

事務局：「ICT を活用した」という文言を削除する。

委員：図 4-9 内に「林冠」という記述があるが街路樹に合わせた文言に修正すること。

事務局：文言を検討し、修正する。

委員：P. 4-19 の図 4-10 の「枝張」とあるのは、「樹冠幅」とした方がよいのではないのか。

委員・委員長：この表現のままで良い。

## ■第5章

委員：表 5-1 の成果目標「市民参画制度の拡充・進展」②について、「アダプト制度に基づき、一步踏み込んだ市民との協働による道路環境改善活動推進とくたま広報」等による市民への理解と協力の呼びかけ」と前進させる文言にすべきではないか。

委員長：本プランに記載する目標としては現在の内容で十分と考える。

委員：図 5-4 下部のイメージ写真は 10 年後の目標ではないか。P. 4-28 からの改善イメージであることを示してはどうか。

委員長：ベビーカーを押す人を入れたり、学校フェンスの見栄えを変更したイメージ作成を依頼している。将来像のイメージであるため、路線を限定する見せ方にしなくても良い。このイメージについては委員長と事務局にお任せいただきたい。

## ■参考資料

委員：「更新」と「植替え」の使い分けが明確でないように思う。前者は、老木や衰弱木の植替えという限定されたもので、後者は、街路に不適な樹種の植替えも含む広い意

味があると理解してきた。そうであれば、「更新」の用語解説に、老木等の限定文言を表記すべき。

事務局：「更新」は老木に限定していない。

副委員長：「更新」の手段として植替えがある。用語集の内容を充実させること。

事務局：検討して修正する。本文中の「更新」「植替え」も再度見直す。

委員：「アダプト制度」の用語解説で「里親制度」という文言は唐突であり、一般市民には理解しがたいので、削除した方がよいのではないか。

事務局：他の自治体を含め、「里親制度」という解説をすることが一般的であるため、このままとしたい。

## ■その他

委員：5-39号歩線の街路樹を更新する場合の候補木を造園側からの意見として野村委員より伺いたい。

委員：シラカシは少しずつ間伐していくといい。中央は、花ものとしてコブシ・サクラ等子どもたちが四季を感じられるような樹種もよいのではないか。

委員：宝野公園に桜が植わっている。

委員：シダレザクラ、ヤエザクラ、モモ、ブンゴウメ、サンシュユのように花期がソメイヨシノと少しずれるのが良いのではないか。

委員：説明会の講演でシンガポールの話があったが、多摩市に当てはめるとどうか。

委員：人件費のかけ方が違い、多摩の10倍くらいである。ビジネスの拠点として人を呼び込むために街の魅力向上を図るため国が取り組んでいる。

副委員長：日本の倍程費用をかけて投資するだけのメリットがあると考えられている。

委員：シンガポールの維持管理方法を多摩市に当てはめるのは現実的でないにしても、街路樹に関する情報をデータベース化していることは多摩市でも取り組めると考える。

委員長：オーストラリアや韓国などもGISを用いたデータベース化に取り組み公開している等、国際的にはデータベース化が進んでいる状況である。

## (2) その他

1)各委員より本委員会に参加したことに対する感想を述べて頂いた

委員

- ・街路樹を伐採した後、萌芽を止める対応を今後やってほしい。特に、伐採後のマテバシイはみっともないと思う。
- ・「伐採します」と市が事前周知した後、近隣からクレームが来て伐採を諦めている樹木があると思う。市は理由を持って伐採するとしているのだから自信を持って対応いただきたい。
- ・団地内のことであるが、緑の管理費用を節約するため住民の有志で芝刈りや草刈りを行う

ている。有志の高齢化で近い将来、芝刈や草刈りも造園業者に発注する時代が迫っている。このままでは緑の管理費が高騰するので将来に備え、剪定を必要とする樹木を減らし、剪定を必要としないメンテナンスフリーの植栽に切り替える作業を計画的に実施している。

- ・多摩市では里山の管理をするボランティアの講習会を続けている。講習会では我々の団地をモデル団地として評価いただいているが、まだまだ宿題を抱えている。

>委員長

- ・今後は講師として市民の方にそういったお話をして頂ければ、私共が話すよりもよっぽど説得力があると思う。これからもよろしくお願ひしたい。

委員

- ・細かいことを色々と提案させていただいたが、結果的として中長期的な管理目標を作るということが明記されたことが素晴らしいことだった。他の自治体にもぜひ見習っていただきたい。
- ・先日も近畿地方整備局からお呼び頂いて、近畿地方の国交省、各地方自治体の方々200人ぐらい集まったところで、公共のみどりとしてのインフラの話をさせていただいた。その時にも多摩市の取り組みをご紹介させていただいて、多摩市は、中長期的にやっていますと紹介した。
- ・それを実際に実現させるためには、やはり目標に対してできているかを評価するシステムを構築することが大事なことである。例えば、剪定が終わった後の評価ではなく、剪定中も管理目標に向かって、しっかりできているかどうかというシステムができるのがのぞましい。多摩市がモデルになって評価システムが出来れば素晴らしい。また、担当の方も変わられるだろうから、複数年継続していくシステムが構築できるとよい。最後に、市民目線では公共の緑というのは街路樹も公園も同じなので、まちのみどりとして、素晴らしいみどりのあふれる多摩市にしてほしい。

>委員長

- ・街路樹施策推進の技術に係る専門家として、これからも先頭を走っていただければと思う。

委員

- ・街路樹よくなるプランということで街路樹のことを考えてきたが、街路樹だけではなく、街路空間としてとらえる必要があるということに途中で気づいた。
- ・私の所属する大学ではまさに街路空間で考えるということをやっている。
- ・アダプト花壇について調査しているのだが、同じような種類が似たような形で並んでいる。そのあたりを今後どう改善していけるか、樹木だけじゃなくて街路樹の下の植え込み

について、今後、どのように取り組んでいくかが大切だと思う。特に街路樹は、市民の方がなかなか関わりにくい部分がある。

- ・落ち葉掃きとかそういうことは今までも比較的取組みやすかったが、植え込み、低木、地被植物などにも市民の方に関わっていただくことは可能だと考えている。そのあたりをもっと強化し、ほかの自治体のモデルとなっていけるような街路空間づくりが進められれば、もっとよくなると思う。

#### >委員長

- ・ご意見いただいたとおり、来年すぐにでもできることの一つとして、灌木を撤去して草花を植えるといった取組みがあると考えていたところだった。そうすれば若い女性などにも街路樹に関心に向けていただく機会が提供できるのではないかと思う。ぜひとも今後とも大学の学生さんともどもご協力をお願いしたい。

#### 委員

- ・博物館の学芸員として、人と自然の関わりの中に街路樹が含まれると考え、2010年に多摩市の街路樹を紹介する展示を行った。街路樹というのは市を特徴づけるものだなと思っていたが、その裏で自治体の苦労があったりした。また、市民の方でも街路樹を美しいという人もいれば、邪魔だという人もいて、展示の方では色んな意見もあるけれどもまずは街路樹を知ることが大事である、とまとめた。
- ・こういう話し合いをする場を設ける必要性が展示における結論の一つだったので、皆様と議論できて良かった。個人的なことだが、シンガポールに行く機会があり、街路樹のマネジメントが上手くいっている事例を見ることができて、それと比較して考えることができたことは良い経験になった。
- ・今回、前向きな提案ができて本当に良かったと思っている。まだまだ先は長い。
- ・樹木だけでなく全体的にもっと広く道路空間としてとらえる必要性も感じた。
- ・今後もお力になれることがあったらぜひかかわっていきたい。
- ・議論の中にお金のお話が出てきたが、一方で、委員長から、「街路樹は生きもの」という話をされてハッと立ちかえることもできた。そういう視点を今後の議論にも生かしたいと思う。

#### >委員長

- ・委員には、今後、ハブ・プラットホーム的な役割をぜひとも果たしてもらえたら大変ありがたい。

#### 委員

- ・道路交通課で街路樹のことをこれだけ熱心に深くやっていることに驚いた。
- ・多摩市は膨大な量の街路樹があるため、プロだけでは手におえず、市民との協働が必要

だと思う。雑草を取ったり、細い枝を落とすなど、手が届く身近なところを市民ができる  
とよい。

- ・プロの人には高い所、市民ができない高所における剪定のようなところに力を入れてほしい。
- ・街路樹管理費のうちの半分くらいが割と低いところの管理に充てられているが、使い方としてちょっといかなものかなと思う。
- ・モミジバフウ、メタセコイアは素晴らしい並木であり、観光資源として、有効活用することを検討すべきである。たとえば、モジバフウ祭りなどを行い、地元の事業者とも連携（サンリオピューロランドからのシャトルバスでの見物や「道の駅」新設による地元特産物の販売など）すれば、将来的にはかなりの経済効果が期待できるのではないか。若い人たちも住みたくなる街に映るだろう。
- ・大径木化への問題解決のためには、造園技術を更に進歩させる努力も必要である。高木を下からリモートコントロールで剪定できる専用作業機の開発や樹木の成長抑制に係る技術開発など、業界として専門メーカー等に働きかける試みも必要ではないか。科学技術が進歩した今日では、不可能なことではないと私は思う。

#### >委員長

- ・本日も多くの意見をいただいた。ありがとうございました。

#### 委員

- ・学ぶことが多く、有意義な経験をさせていただいた。
- ・私は伐採にはまだ抵抗があるが、伐採をしなければならぬことが委員会に出席して理解できた。ただ、切株をみると悲しくなるので、できれば植替えしてもらえたらと思う。
- ・行政任せではなくて市民にできることはやるべきだと思うし、一つ提案だが、ボランティアの仕組みとして、一日でも一人でも親子とかでも参加できる仕組みがあればそれをきっかけに街路樹に興味をもつのではないかと思う。
- ・たとえば、多摩市はサンリオピューロランドが有名なので、SNSを使って市民からいらなくなったハローキティ等サンリオのキャラクターのぬいぐるみを集めて、そのぬいぐるみたちが街路樹を眺めている写真を撮るなどの取り組みはどうだろうか。サンリオに許可を取る必要はあると思うが、お金もそれほどかからないと思うので、検討してほしい。

#### >委員長

- ・SNSの話に関連して、女性がFacebook等のSNSの活用を含めて、情報発信とかで参画する場をつくれないう話を事務局にしたところだった。
- ・広報に係る所管課とも連携しながら検討して行ってほしい。
- ・最近だと農業でもハイヒールで来ても市民農園ができるというのも流行っている。
- ・ボランティアというのは、必ずしも、ずっと継続しなければならないというわけでは

なくて、時間がある時だけやらせていただく、子供と一緒に参加できて良かったね、というのも一つの形である。そういう仕組みも大事だと思う。

## 委員

- ・平成 20 年度策定の「多摩市街路樹よくなるプラン（街路編）」に基づく、事業の実施にあたり、私も数年前に関与した。上之根大通りにおいて、多摩市から支障となる 35 本の街路樹を伐採するという計画がなされ、地元住民から反対署名運動が行われた。市から、市と市民の間に入ってもらえないかとの要請があった。
- ・前の「よくなるプラン」を見た時には「なくなるプラン」ではないかと印象を持った。
- ・街路樹は、いらぬものではなく、都市環境の保全と景観に寄与するものであるので、景観を守りたいという思いを抱いた住民の人たちの気持ちもわかると感じた。
- ・今後、現行の「よくなるプラン」の改定を行うということが前提なら、ということで、市と住民との間に入り、現地を見て伐採本数を約半分とし、残りを剪定することにした。実際に、今回のよくなるプランの改定のきっかけになった。
- ・みどりの管理費が増えるのは仕方がないのではないか。この財源をどうするかというのを真剣に考えてほしい。市民に理解していただく様々な努力が何よりも必要だ。特別目的税の創設、ネーミングライツ等の手法もあるので、色々なものを活用して、管理費の増大に備えてほしい。
- ・最後に、市内には市道だけでなく、都道があり、尾根幹線の整備等も進んでいる状況にある。これらの道路計画については、将来を見据えて、既存の交通計画を大幅に見直さなければならない時期が来るだろう。計画を考える際にも市民とコンセンサスを取っていく必要があると思う。

### > 委員長

- ・今の話を全てできるか分からないが、今年 4 月から森林環境税が各地方自治体に交付される見込みである。実際の使いみちというは各自自治体の裁量に任されている部分がある。
- ・今回の提言書は、そういったものも見据えたものである。
- ・また、横浜市のような形も検討していく必要もあると思う。

### 副委員長

- ・私自身はそれ程、街路樹に関しては専門ではないので、勉強になった。
- ・個人的にも参加させていただいて大変良かったと思っている。
- ・この委員会の議論を通じて、生き物って面倒（めんどろ）くさい面があるなど改めて感じた。委員からも先ほど話がありましたが、街路樹は生き物であり、生き物は成長し、いつの日か死ぬものである。
- ・植物の時間間隔と私たちの時間間隔と違うことを忘れがちになっていると思う。

- ・今取り扱っている話は、日本で共通している話であり、結局、植物も大きくなりすぎちゃって、面倒（めんどろ）くさいという話に落ち着いている。しかし、我々も生物として、子供を育てたり、親を敬ったりすることがあるのと同じような感覚で今後楽しく街路樹を扱っていてもいいかなって思う。
- ・ぜひ皆様に伝えたいことだが、「コスト」、「重荷」という議論があったが、これをリセットし、私たちの感覚を変えていく必要がある。重荷と考えた瞬間に、お荷物になってしまふ。次世代は重荷って感じたら終わりだと思う。街路樹も重荷と感ぜないでいただきたい。
- ・先ほど委員から、自分たちで行っているメンテナンス（管理作業）が今後できなくなってしまうかもとおっしゃっていたが、自分たちでメンテナンスする行動を見て、いい活動だなと気づき、引き継いでくれるような人が出てくるのが目指す姿だと思う。
- ・愛着をもっている人を増やしたり、私たちの思いを引き継いでいきたいというファンをつくるのがとても重要だと思う。今後そのお手伝いをしていきたい。

#### >委員長

- ・今の副委員長の思いは、提言書の中にも「私たちの世代はこのような予測に対して、負の遺産を背負うのではなく、知恵や工夫によって明るい未来へと変えていくことができることを示さなければなりません。」として書かれている。
- ・みどりを切るということは、ネガティブに感じるが、逆にそこでどういうふうに工夫できるか、それによってみどりが基軸の新たなライフスタイルにしていけるかどうか重要である。また、地価も右肩上がりの時代ではなくなってきたためから、みどりが投資対象となり、その結果、街の価値が向上されるという流れに変化していくとよいと思う。

#### 委員長

- ・今のトレンドの一つである「グリーンインフラ」という言葉、概念は、本プランに入れられた。一方、企業のSDGs（Sustainable Development Goal;持続可能な開発目標）については、今の時代の重要テーマと言われながら、その部分について深く踏み込むことはできなかった。
- ・今多くの企業がSDGsの予算を抱えているし、ESG投資という形でこれからの企業の経営を図る一つの指標として見られようになる。
- ・CSR（Corporate Social Responsibility;企業の社会的責任）というのをご存じかもしれないが、企業がやる地域貢献、一昔前は文化で、今は環境、人権、性差別の解消などに踏み込んでおり、さらに、SDGsの中では生物多様性や二酸化炭素の吸着とか、そういうことも含めたものになっている。可能であれば、今後そういう部分も検討されたい。
- ・今回、皆様の方で作り上げたこのプランは、企業に持って行って、多摩市はこういうことを考えています、だから少し投資してくれませんかと自信をもって言うことができるプランだと思う。

・先ほど委員が言っていたことだが、道路交通課がこれだけみどりのことにやっていて、造園施工に関する専門知見を有する委員の指導に基づく、樹木の様々な剪定手法まで入った冊子ができるなんてなかなかない。多摩市の許可が得られれば、国交省にも一緒に報告に行きたい。

・関東地方整備局は街路樹について現在一生懸命進めようとしている。景観重要道路のあり方に関する検討もしている。是非とも多摩市の道路についても、景観重要道路に指定されるような方向にもっていけると市民のモチベーションにもつながるのではないだろうか。

・景観計画は様々なセクションが協力してつくるものである。道路交通課という壁を飛び超えて、ぜひともそういうところまで踏み込んで、縦割りを超えて「みどり」ということで、みんなで盛り上げていただけたらと思う。

## 2) 委員長から市に対する提言書についての説明

委員長：市への提言書については、私と副委員長のほうで取りまとめさせていただいた。

今回の改定版並びに提言書につきましては、不動産価値の向上など、今まで街路樹の計画では登場しないような言葉が入っている。この計画は、市長公約である「健康まちづくり」にも寄与するものだと考えている。

これらを渡して終了ということではなくて皆さんと共に今後もまさにパートナー、応援団になっていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

委員長：今回の委員会で出た意見への対応については、事務局で整理し、私まで報告をお願いしたい。

事務局：承知した。

## 3 閉会

・内田道路交通課長より閉会の挨拶

10回にわたり、ご議論、ご意見、ご提案など頂戴し、感謝申し上げます。

また、原案について、ご承認いただき感謝申し上げます。

これからも引き続きご支援、ご協力賜りたい。